

「経理担当者実務研修（第2講）」を開催

「経理担当者実務研修」第2講（全3講）を10月18日（火）に開催した。

前回に引き続き講師に㈱真和会計の川口昌紀税理士をお迎えし、企業会計を規律する基本的なルール、経理が知っておきたい税金と社会保険の知識、給与事務と労務事務について講義を行った。

まず企業会計の原則として、正しい期間損益計算をするため「発生主義」を採用していると説明したうえで、企業会計と法人税との差異について、交際費や寄付金の損金不算入、繰越欠損金の損金算入等の具体例を示しながら解説した。

令和5年10月1日から導入されるインボイス制度について、「仕入税額控除」の適用を受けるためにも、その準備となる登録申請を早めしておくことを勧めた。

その他、給与に対する所得税の源泉徴収について、現金で支払われる給与だけでなく、食事、通勤定期券、住宅の提供など、現金以外のものを現物で支給する「現物給与」に対しても、課税が必要な場合があるので注意してほしいと強調した。

最後に、給与計算の演習問題に取り組み、給与支給控除一覧表と振替伝票の作成を行い本講義の理解を深めた。

第3講は11月15日（火）に「決算と税務申告」「財務会計と管理会計」をテーマに開催される。



「後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割」を開催

独立行政法人 高齡・障害・求職者支援機構（ポリテクセンター和歌山）からの委託を受け「後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割」を10月19日（水）に和歌山県民文化会館で、19名参加のもと開催した。

講師には、㈱あさひ C&C Office 代表取締役の中村達也氏をお迎えし、ティーチングやコーチングの手法を用いて後輩指導力を高め、職場の課題解決を図り生産性向上に繋げていくことを狙いとしている。

ティーチングでは、「答えを持つ者が持たない者に分け与える」ことで、新入社員や若手社員に技術やノウハウを伝授する際に有効で、コーチングでは、「答えは相手の中にある」ことで、聴いて質問することで、自ら考え行動することを支援するものであると解説した。

実習では、職場の課題や解決に向けた方法などをワークシートに記入し、会話をする「発話思考法」という手法を用いて進められ、受講者は記入した内容について、グループワークで話し合うことで理解を深めた。

コーチングを実践するなかで、「聴く」ことについて、面談時に沈黙を避けるために、聴き手が話を進めたり安易なアドバイスをせず、相手の話に相槌をうつ等して「支持する」態度を出し、リラックスした中で本音を聴き出すことが重要だと学んだ。

